

はほど遠いと思った」「もっと時間が欲しかった」などの意見もあります。このような声を大切にして、より多くの学生をサポートする工夫を現実化していきたいと思っています。

この間を眺めると、卒業後の早稲田女子学生のキャリアが、そのまま社会における女性と社会の関係に投影されているのを感じます。これからも、私たちだからこそできる現役女子学生への支援とは何かを考えながら、早稲田OGの社会での経験を現役女子学生に還元する橋渡しの役目を果たしていきたいと考えています。

## ネットワークでの会員交流

以前、会員に「これからの一〇年に向けてのアンケート」を行ったところ、「参加したいが多忙」「同職域同士での情報交換・交流の機会が欲しい」「会員短信をニュースレターに掲載して欲しい」「若い会員が少なく」などの意見が出されました。

いまやインターネットの時代です。TWNもホームページやメーリングリストを活用していますが、さらなるネット手段の導入が必要だと考えています。こうした会員の意見に応えるために、今後はSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を導

入する予定です。直接会ったことがない会員同士が、インターネットを通じて、さまざまな話題で、井戸端会議ができる仕組みです。早稲田OGならではのネットワークをフルに生かした楽しい場にしたと思いますので、ご期待ください。

TWNは創立一五年の年月を重ねました。会の礎を築き、大学との信頼関係を築いた女性の先輩たちの思いを受け継ぎ、これからも着実に歩んでまいりたいと思います。

## 一九六八年次稲門会(昭和四三年卒)「誉燦会」

TWNが女性を中心にした縦の会である一方、卒業年次で組織した「誉燦会」は、同期男女の校友を横につなぐ会です。この会は、二〇〇三年一月に発足し、私は発足時より会長を務めています。

毎年一〇月の大学の創立記念日に合わせて開く総会には、毎回一〇〇名を超える同期生が集まってくれます。総会は、全三部で構成され、第一部では、各界で活躍する校友の講演、第二部は、校友バンドによる演奏会、第三部が懇親会になっています。

同じ時期、時代に早稲田の空気を吸い、青春を過ごした仲間の絆がしっかりと結ば



キャリア支援イベント(パネルディスカッション)

れていく手ごたえを感じています。

海外の大学では、同窓会が、学生支援、大学の運営に大きな力を持っているようです。早稲田大学の校友会でも、年次の稲門会が中心的な組織に発展していくことが必要でしょう。私たちの誉燦会が、年次稲門会を牽引することができるよう活動を続けていきたいと考えております。

TWNが縦糸、誉燦会が横糸、この二本の糸で校友会というタピストリーを織り、若い校友を迎えたい、これが設立一二五周年に思うことです。